



FŪ EN
楓園

CONTENTS

- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 — 特集Ⅰ 新体制始動
院長就任式「神への感謝 仕える喜び」
鼎談「東洋英和の未来を語る」 | 11 — 東洋英和幼稚園 NEWS・かえで幼稚園 NEWS |
| 8 — 学院 NEWS | 12 — 小学部 NEWS |
| 9 — 特集Ⅱ 野尻キャンプサイト | 13 — 中高部 NEWS |
| | 15 — 大学 NEWS |
| | 19 — 英和の植物通信・お知らせ |



■「敬神奉仕」の伝統精神をつなぐ

2007年5月11日に新マーガレット・クレイグ記念講堂にて院長就任式が行われました。たくさんの方々のお支えのもと池田守男新院長を迎え、東洋英和女学院の新たな歴史が始まります。神に祈りを捧げ、共にこの日を祝いました。

院長就任の辞

神への感謝 仕える喜び

理事長・院長 池田 守男

主であり、師であるわたしが
あなたがたの足を洗ったのだから、
あなたがたも互いに足を
洗い合わなければならない。

ヨハネによる福音書 一三章一四節

召命しょうめいに導かれ感謝かんしゃに生きる

神に感謝いたしております。またご
出席いただきました皆様方、日頃から
皆様方のご支援によりまして、私は今
日まで生かされているのではないかと
いうことを強く感じさせられておりま
した。また先程は、中高部クワイアに
よる「アレルヤ」を万感の思いでご一
緒に聴かせていただきました。ヘンデ
ルのメサイアにおいてもそうですが、
ハレルヤというのはご承知のように
「イエス・キリスト誕生」がハレルヤで
はございます。「十字架」がハレルヤ
でございます。そういう思いで聴かせ
ていただいております折に、私はひ
とつの聖句を思い起こしました。その
聖句は「一粒の麦 地に落ちて死なず

ば一粒に過ぎず。されどその麦 地に
落ちて死なば多くの実を結ぶなり」と
いう言葉でございます。私自身この一
粒の麦の如く、全身全霊をもって皆様
のお支えの中で、この東洋英和の院長
という役割を果たさせていただきたい、
そういう思いをもって神に感謝をさせ
ていただいていたところでございます。

感謝以外の言葉はございません。

東洋英和女学院の理事長に二年ほど
前に就任させていただきました、この
度は新たに院長という役割をいただい
たわけでありまして、申すまでもなくそ
のような器ではございません。私自身
を小さな土の器ではないかというふう
に常に思っている者でございます。し
かしながらこの使命をいただきました
時に、牧師を目指しておりました私の
若き日の志と、企業人・経済人として
経験しました多くのものを院長という
立場で教育の現場において少しでも役
立たせよという、そういう神の声を私
は祈りの中で聞かせていただいたとい
う気がしてならなかったのであります。
このことは私にとりましては、神から
の「召命しょうめい」であり「Calling」ではない

かというふう思うわけでご
ざいます。先程も申しました
ように小さな土の器でござい
ます。院長に値する者ではご
ざいませぬ。しかしながらこ
れまで常に大きい役割をいた
だきます時には何かそのよう
な「召命しょうめい」「Calling」というも
のを感じさせていただくこと
によりまして前に進んで来た、
そういう経験が大変多くあつ
たわけでございます。これら
のことを考えますと、小さな
器であるからこそ、足りない
部分を神が補ってくださる、
足りない部分があるからこそ

多くの方々のお支えの中で新しい役割
を担うことが出来るのではないかと、そ
ういったことを常に感じてまいりまし
た。足りない者が大きな役割をいただ
くということ、そのような機会をい
ただいたという感謝の念以外の何もの
でもございません。その感謝の念を持
って、多くの皆様のご協力を得て、そ
の役割を遂行させてまいりましたのが、
今日までの私自身でございます。



与える喜びが満ち溢れるように

経営の立場にありましても常にサー
バントに徹することを自分自身にも言
い聞かせ、組織の中でも全てが社会に
向かって、お客様に向かってサーバン
トに徹するべきである、「サーバントリ
ダーシップ」を発揮すべきである、
ということをお願い続けてまいりました。
この世の中にありまして、私はこれか
らの時代、サーバントに徹する、その

御祝辞をいただいた先生方



本学院高等部部长
佐藤順子先生



青山学院院長
深町正信先生



山梨英和学院理事長
幸田三郎先生



キリスト教学校教育同盟理事長
明治学院学院長 久世了先生

ことによる喜びが社会全体を大きく発展させる原動力になるのでないかということを強く感じさせられております。聖書に「与ふるは、受くるよりも幸いなり」という言葉がございます。与える喜びは受ける喜びよりもいかに大きいかということを感じつつ、私自身も小さな器でありながら、今日までサ-

バントに徹するよう努力してまいりました。私どもの東洋英和がこの与える喜び、「奉仕」の精神に満ち溢れた学院であってほしいと願っております。その院長となる私が先頭を切りまして、教職員の皆様とともに努力をさせていただきたいと思っております。ヨハネによる福音書一三章では弟子の足を洗うイエスの姿が記されております。イエスは自らを低くされ、弟子の足を洗うという行為で、本当の「奉仕」の気持ちをわれわれに示しておられます。この「奉仕」の精神が先程申しましたように学院のみならず、社会全体に満ち溢れることを期待してやまないわけでございます。そのために教育の現場の責任者といたしまして、また企業に携わる者といたしまして努力をさせていただきます。それには多くの関係者の皆様のお支えなくして出来ないわけでありまして。ご一緒に臨ませていただきたいわけでありまして。

よき伝統に新しい木を接ぐ

二一世紀を迎えまして新しい社会秩序が模索されております。その中にありまして今日ほど教育の重要性が問われている時はないと感じております。私自身政府の教育再生会議の委員の一人としまして今朝ほども会議がございましたが、ますますその責任の重大さを痛感しております。

教育には理念が必要であります。私

にとりまして人間形成の柱とさせていただきます。ただいまありますのは新渡戸稲造先生の人間性であり、人格形成の理念であります。「武士道」その他の著作によりまして多くを学ばせていただきました。神への愛、隣人愛、そして生きとし生けるもの、地上に存在する全てのものへの愛と尊敬の念。また目に見えるものより目に見えないものを尊重するよいうな精神。多様な価値観、知識を積極的に受け入れ、それらを融合し新しいものを生み出し、その生み出したものをもって社会のために奉仕していく精神。私はこれこそが教育の原点であり基本であるというように思っています。しかしながら今日の社会状況、特に家庭や地域社会を見ますと、あらゆるコミュニケーションの中でそれぞれの関係性といったものが希薄化しております。そういったことを考えますと今の社会の中で最も欠落いたしておりますのは、先程申しました理念であるように思います。そうであるならば何としてもこれらの精神を今日の社会の中に根付かせたい、定着させたい、そういう思いで一杯であります。

東洋英和ではご承知のように「敬神奉仕」の精神に基づきまして、様々な社会的事業を行ってきた歴史がございます。そのことは知識の習得のみならず、人格教育に力を入れているということでございます。ひとつの例といたしまして永坂孤女院や恵風女学校のよ

うな救済事業、社会事業の一端を心懸けるような教育が伝統的に培われてまいりました。ですから、私が『武士道』から学ばせていただいた「接ぎ木」の考え方にのっとりまして、東洋英和のよき「敬神奉仕」の精神・伝統を「接ぎ木」の台木にいたしまして、その上に新しい時代に向かつての教育概念といったものを接ぎ木し、東洋英和のみならず日本の教育そのものが新しく再生することを願ってやまないでございます。

共に喜び共に泣き、歩み続ける

北原白秋が作詞しております東洋英和の校歌がございます。ご存知とは思いますが、「神を思ふ清らけきもの 人につかふ度ましきもの」という「敬神奉仕」の精神が校歌の中で詠われてございます。この校歌にあるような人物を育てていきたいのであります。そして私ども一人ひとりが喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く、そういう人でありたいというふうに願ひ、私自身も皆様とともに努力をさせていただければ幸いです。冒頭にお約束させていただきまして、一粒の麦の如く、その役割を果たさせていただきます。どうか皆様のあたたかいご支援とご協力をお願い申し上げます。私の院長就任の挨拶にかえさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

鼎談

東洋英和の未来を語る

理事長・院長

池田守男

副院長・学長

鮎戸 弘

副院長

吾妻國年

今年度から始まった学院の新体制。新院長・副院長に東洋英和をめぐる様々なテーマについて語っていただきました。

大きな変わり目を与えられて

池田 五月一日に院長就任式を行っていただきました。皆様にご心より感謝しております。私は二〇〇六年あたりから日本の社会は新しい出発の時を迎えている様に思われてなりません。その大きな社会全体の変わり目の中で学院も新しく出発することが出来たことは、とても意義あることだと思えます。私は学院の教職員が一体となって使命を果たしていくために、院長・副院長が中心になって多くの問題に取り組んでいかなければならないと考えています。

一・二三年前のミス・カートメルに始まる歴代の宣教師の熱い思い。それを受け継ぐべき教職員。「母の会」や「後援会」の存在。さらに同窓生の学

校に対する思い。こういった「教職員」「母の会・後援会」「同窓生」の方々から三位一体となって学院の今日があります。そういう方々と一緒に、これらの英和をつくっていききたいですね。

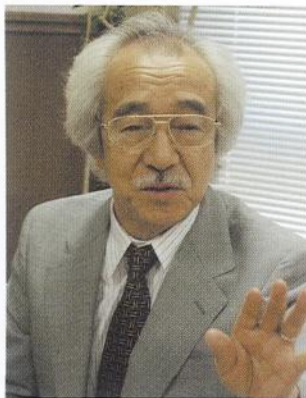
鮎戸 理事長は激務の中、院長をお引き受け下さった。大学はキャンパスも離れており、制度もかなり違いますので、少しでも院長のお手伝いをしなければと考えました。どこの大学でも、大学というのは建学の理念は不変ですが、学長が変われば学長は新しい方針を立て、再出発する形になるものです。伝統を残しつつも時代に沿うよう、新しいものを取り入れて対応・改革していきます。学院も同じで池田院長でなければ出来ない新しい英和があると思うのです。そういうものを模索し、伝統を守りながら一緒に改革していきたいと思っています。また池田院長の方針に合わせて、大学も変えていかなければならないと思っています。

吾妻 副院長職を引き受けたのは、池





池田守男 理事長・院長
1936年香川県生まれ。東京神学大学卒業。株式会社資生堂に就職、社長・会長を歴任し、現相談役。2007年より教育再生会議座長代理。公益認定等委員会委員長。政府機関、各種公職や教育関係の要職多数。



飽戸 弘 副院長・学長
1935年神奈川県生まれ。東京大学教育学部卒業。東京大学名誉教授。海外諸大学で研究員として研鑽を積む。1995年より本学教授、2005年より学長。放送倫理・番組向上機構理事長。



吾妻國年 副院長
1941年東京都生まれ。東京神学大学大学院を修了。1972年より本学院中幹部教諭、聖書科担当。2000年より高等部部长。日本基督教団教務教師。高等部部长退任後は副院長として日常的には六本木校地で各部調整に当たる。

田先生をお支えする以外の何もものでもございませぬ。中高部に三五年奉職しました経験の中から英和の伝統を少しでもお伝えすることで、お役に立てればよいのですが。先日、IBMの元会長である北城恪太郎先生の講演を聴く機会があったのですが、教育が大きな変革を迫られているとおっしゃっていました。現代の産業・経済の分野に対しても対応可能な新しい時代の学校教育のあり方が求められています。

英和における核となる教育を実践したのは、カートメル、ラージ、ブラックモア、ハミルトンの四人だと思えます。篤い信仰心と奉仕の精神、深い知識と教養を兼ね備えたカナダの宣教師・校長たちが日本の女子教育を築いていった内容と意義は新しい時代に益々重要な役割を果たすと思うのです。

現代に「敬神奉仕」を生かすには

池田 ミス・カートメルの思いはキリスト教中心の人格教育です。そのことは普遍ですが、明治時代の時代背景と

現代社会ではそのあり方が違ってきています。キリスト教を中心とした普遍的な人格教育と現代の教育・研究とをどう一体化させていくかが私達の課題です。大学でもリベラル・アーツの中にキリスト教の精神を新しい視点で落とし込んでいただきたい。私立でないとならない教育があるはず。そういった環境に英和があるということは大きな社会的役割が与えられているという事ではないでしょうか。それを今よりさらに、もう一歩進めるにはどうしたらよいか、一緒に考えていきたいですね。

飽戸 幼稚園から高校まではキリスト教教育による連続性があるが、一貫教育が成功しているのですが、大学は少し連続性が希薄になってきているようです。七、八割の学生がキリスト教と関係ないところから入学して来ます。先生方もクリスチャンが一割足らずです。学院の中でも大学独自のキリスト教教育、一貫教育が問われています。そこでまず言えることは敬神奉仕に基

づき「人のために仕える心やさしい人に育ってほしい」ということです。就職率九八%が物語るのは、卒業生が社会から愛されていて、評判が良いという事で、そういった意味では大学におけるキリスト教教育による人格形成は成功していると思います。しかし礼拝などに関しては少しでも改革していきたいと思っています。先日学生だけで礼拝をしたのですが、友達に参加を呼びかけたりして、とても和やかな雰囲気でした。私どもの大学同様、広島女学院大学やフェリス女学院大学なども学生に礼拝を担当させ、いろいろ工夫している。こういうことを今後もっと積極的に取り入れていけたらと考えています。

池田 上から言われている行動でなく、自発的なことが大事ですね。二年前にキリスト教学校教育同盟の会合で関東学院に伺う機会がありました。関東学院はクリスチャンスクールだったのが一度無宗教に近い学校になってしまったのです。しかしそうした状態から

チャペルを作り、クリスマス礼拝を自発的に開き、ごく自然な形でキリスト教の学校に戻っていったそうです。やはりキリスト教による人格教育、宗教的情操教育こそが必要なのではないか。教育の最終目的は「人格の陶冶」です。あまりにも世の中が個人主義・利己主義になってしまっている傾向がある。個の尊重も必要であります。それ以上に「私」「個」を超えた「公」の精神が必要です。英和における「敬神奉仕」のように他者を認め、他者に尽くすことが今の時代益々必要になってきているのではないのでしょうか。幼稚園から大学まで何かしらそういった精神が充滿している英和の環境に、上から押し付けられるのではなく、自発的に盛り上がっていくような後押しが

出来ないかと思っています。吾妻 狭くキリスト教信仰とその教育に区切らずにキリスト教ヒューマニズムの「すべての人は神の似像として造られ、豊かな恵みと賜物を受けている」という立場から、信仰の有無を超えて、

普遍的人間性の諸価値の教育や、奉仕活動などで互いに協力していくことが大切だと思います。

鮑戸 私も先ほどの関東学院の話はシヨックでした。「クリスチャン教職員が、クリスチャンでない方々から信頼されない限り、キリスト教的教育改革は実現しない」という発言には胸を打たれました。

学校の「空間」から学ぶもの

池田 教育の現場にはお互いの信頼関係が大事です。教師同士が、そして教師と生徒が信頼していなければなりません。常にそういった関係がもしも出されているような学校の環境といったものが大事なのではないでしょうか。私は戦中・戦後の混乱の中で小・中学校の教育を受けました。確かに粗末な校舎の学校でしたが、そこでの学校の「空間」の思い出を今でもまず一番思い出します。ああいった空間の中で友情、教師との触れ合いの思い出というのは社会に出て大きな決断を迫られた時によりがえってきて、ひとつの正しい選択に導いてくれる重要な要素だったと思います。ですから英和の皆さんの古い校舎への思い出というのは単なるノスタルジアというよりも人格形成の核となるような重要なものだと思うのです。空間から感じることやそこに流れる空気などいろいろなことから私達は自然に学び、人間形成をして

いる様に思われます。ですからどんなに小さなことでも教育の現場では大切にするべきですね。

鮑戸 英和は愛校心という意味では大成功していると思います。大学でも、正直言って、入ってくる時は第一志望ではなくても、卒業する時にはみんな、東洋英和女学院大学に来て良かったと言っていると思います。

池田 英和の精神というのは幼少中高部のある鳥居坂から始まっているわけですが、横浜を出発点としている大学と今後いかに融合していくか、鳥居坂西地区の再開発が検討されてきていることも合わせて考えていかなければならない課題ですね。新しい出発ということは創立の精神に直接的に向き合える、学校のあり方を根源的に探るべき時でもあるわけです。大学と高校、また大学と大学院といった今は地理的な距離によって交流がなかなか難しい状況も、交流する機会が増えることで改善されていくでしょう。

伝統と改革―祈りの中にある答え

池田 冒頭に申し上げましたが、二〇〇六年という年が良きにつけ悪しきにつけ新しい日本社会の出発の時と私は感じています。新しい出発の時だからこそ出発地点をみつめ、新渡戸稲造先生の「接ぎ木」の考え方のように、英和の創立の精神、良き伝統を台木に今の時代の教育を接ぎ木していただきたい。

ラインホルト・ニーバーの、「神よ、私に変えてはならないものを受け入れる心の冷静さを、変えるべきものを変える勇気を、さらには変えるべきものと変えてはならないものを見分ける叡智を与えたまえ」という有名な祈りがありますが、まさにこの祈り以外の何ものでもありません。こういった祈りをもって全体的な視点からこれらを模索していきたいですね。

鮑戸 大学の創立時には、これからの時代の生き残りを賭けて、今まであった短期大学の歴史・伝統とはかなり異なる路線で進もうという決断のもとで、保育科や英文科も廃止されました。そこで短期大学から四年制大学への移行の時に、その歴史や心のつながりといったものが薄れてしまった感があります。しかし今回大学の改革を進めていく中で、社会的要請である国際化への対応、保育の重視といったことから新たな専攻が生まれました。それは短期大学時代からの「英語の英和、保育の英和」という伝統へも繋がっていくわけです。

社会の要請とつながる大学教育を

池田 私はこれからの時代のキーワードが三つあると思っています。それは「国際化」「多様性」、そして「互恵の精神」です。広く世界に門戸を開き、多様な価値観を尊重する。さらに一方だけではなく、お互いが恵みを受受出

来ること。これらを念頭に、これからの大学の学部・学科というのは社会や時代の要請に応えて、毎年見直すくらいのことが必要だと思います。英和の場合、将来的な六本木との連動性も含めて考える必要がありますね。

さらに「生涯学習」というのもこれからの時代の大きな要請ですね。こうしたことを視野に入れて鳥居坂地域が新しいメッセージの発信地になればいいですね。

鮑戸 大学は「大学学部教育」と「社会人大学院」「生涯学習センター」を三本柱にしています。生涯学習センターは今後、人生八〇年時代の「生涯」学習に貢献し、地域に貢献し、そして将来的には、センターでの授業が大学や大学院の単位認定につながるようなシステムも検討していきたいと考えています。

英和だからこそ出来る教育を

吾妻 歴史を振り返りますと、東洋英和ではヨーロッパ近代教育に基づき、一五教科にわたる授業が創立当初から行われました。いわゆるリベラル・アーツの基礎というべき学科ですね。そしてそういった新しい教育に関心を抱いた人達も子ども達を東洋英和に預け、最初は二名でしたが二〜三年後には二五〇名近くに生徒が増えるわけです。

池田 進取の気性に富む家庭の子が入学してきたわけですね。資生堂の創



始者の娘、福原とり子もその一人です。
吾妻 ハミルトン校長は帰国子女で日本語が話せない子ども達のためのクラスなども開いています。このハミルトン先生というのは創立五〇周年の時期にヴォーリス設計の旧校舎を建設し、

学院標語、制服、校歌、学院組織などを整えるなどの事業をされましたが、第二次世界大戦が始まり、やむを得ず帰国され学院にとつての大きな挫折があったわけです。しかしそのハミルトン先生と長野彌先生のご尽力により野尻キャンパスにて

の野外教育が始まる

などの重要な歴史も

継承されています。

こういった野外活

動、生徒会やクラブ

活動を通じて中高生

時代に人間力を養う

ことで、自由闊達で

物怖じしない英和生

の気質が生まれる、

教科書の勉強ばかり

ではなく、そういった

活動から人間の幅

が広がるのでしょ

ね。

池田 「男女共同参

画社会」が唱えられ、

社会においても女性

ならではのリーダー

シップが必要とされ

ています。なかなか

共学校ではそれが育

たない現状の中で、

女子校の存在という

のは、新しい社会モ

デルを実現していく

上で重要な使命、存在意義があります。社会で活躍されている卒業生も多いです。すから、そういったことも生徒達にフ

ィードバックしていきたいですね。し

かし何より英和で素晴らしいのは学校

に音楽が満ち溢れているということ

ですね。音楽といったものを大学の中

にも是非広げて伝統精神をつないでい

たいですね。

鮑戸 大学でも「正課外学習」は盛ん

です。オーケストラ部が出来たり、ハ

ンドベル部が出来、大学のハンドベル

も去年購入しました。徐々にそういった

下地が出来つつありますね。中高部

の音楽会と交流出来たりしたらいい

ですね。

吾妻 池田先生は昨年一二〇周年ピ

ノ科音楽会にご出席されました。ピ

ノ科は学院設立の二年後には早くも設

置され、月謝も授業料より高いくらい

だったのですが、そういった情操教育、

芸術的感性を育てる教育が昔から根付

いていたのですね。昨今の高校での未

履修科目問題などを見ても、人間を偏

った形で教育していると思えない。

池田 持っている資質を出来るだけ豊

かに引き出し、全人格的な教育をする

ことが大事です。

鮑戸 大学は非常にスポーツが盛んで

強いのですよ。

池田 この前のテニス部の「第一部」

への昇格もすごかったですね。

鮑戸 入学した時は素人でも在学中に

強くなるのですよ。今は正課外学習も

重視されておりまして、スポーツや、

サークル活動、そしてボランティア活

動などで鍛えられた対人関係や人の

調和、リーダーシップが会社に入って

役立つということが評価されてきてい

るのですね。

池田 これからの英和の女子教育のキ

ーワードは「自由と規律」だと思いま

す。のびのびと学ぶとともにわれわれ

の学院の後ろにある大きなキリスト教

という規律を自然に身につけられるよ

うな環境にありますからね。

豊かな感性こそが未来を開く

吾妻 先ほどの北城先生の講演です

が、正課外学習も重視される方向へ大

きく転換していく必要があるとのこと

でした。日本は産業や科学技術力が停

滞傾向にあり、思索や経験を欠く暗記

的知識一辺倒の受験勉強の弊害が出

きているのですね。

池田 大学入試が変われば高校教育も

変わらざるを得ないでしょう。また、

採用を行う企業側もどういう人を求め

るかメッセージを発信する必要があります

ます。実際、学歴や学校の成績だけで

は判断出来ません。大切なのは想像力

や問題解析能力・解決能力、そして一

番大切なのは人間的感性ですね。豊か

な感性を持った人達の集団が最も強い

と思いますし、そうした集団が社会を

変える原動力になります。豊かな感性

豊か

豊か

豊か

を持った人物こそ、真に求められているのです。そういう実情を踏まえれば大学のあり方も変わっていくのですが。吾妻 先日、池田先生が「人材という言葉を使ってほしくない。人格教育と言ってほしい」とおっしゃっていて、大変感銘を受けました。

池田 「イノベーションを起こすような人材」といった意味では「人材」という言葉も使いますが、学校教育の場は「人格教育」がふさわしいですね。

吾妻 「人材」というのは何かのための物件的手段のようで、カントが言ったように、「人格」は自由と尊厳を有するそれ自体が目的です。人間教育、人格教育を目指さねばなりません。カナダの宣教師も当初からそういうことを考えていたわけです。

池田 大学も東洋英和の教養教育の伝統の上に立って、専門知識を重ねていき、社会の中で活躍していける人を育てていくのが理想的ですね。

吾妻 そのような教育を受けた人達がより良い社会を形成していく力となっていくのだと思います。

池田 英和生には、聖書にあるように「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」そういう感性を持った人に育ってほしい。人や自然に対する思いやりがない限り、共に喜び共に泣くことは出来ません。それは豊かな感性を持つこと以外の何ものでもないですね。そうした感性は先ほど申し上げたような野

外教育などを通した全人教育の中で養われてくるものです。教育現場でのそういうものが育ってくるような環境づくりやカリキュラムづくりが我々の大きな使命だと思っております。

飽戸 日本の社会は横並び社会で「みんな一緒に」ということが多いのですが、それだとこれからの国際社会に勝ち抜いていけない。大学の四年間の中で自分の光るものを見つけて出して自分を発見して社会に出てほしい。大学では今回の改革に伴いまして「4years. The time to realize your true potential」を広報のキャンペーンテーマにしています。個性を大切に、その個性を

大学生生活の四年間で育ててほしい。そして社会に出て、生かして欲しい。また、英和の学生は優しくて、おっとりしているけれど、言うべきことはきちんとやって、物怖じしない。クラブ活動や学園祭、卒業懇親会、クリスマスパーティーなどの企画でも素晴らしいリーダーシップを発揮する。こうした学生たちが多様な活動を楽しみ、多様な個性を伸ばしていき、そういう環境を教職員全員でつくっていかないといけないと思っています。

吾妻 過去において英和生は恵風女学校や永坂孤女院などを設立し、恵まれない子ども達を助けた歴史からも、女性らしい思いやりという心の伝統が女子教育の中で育まれてきたと思います。六〇年前の有名な女性解放論者も、

理想とする社会について、男女が画一的に同じになるのではなく女性は女性らしさを生かしながら共存していくということを言っています。

池田 まずは女子教育には大きな役割、使命が加わってくると思います。

我々はそのような重要な使命を担い新しい役割を与えられて出発しようとしています。東洋英和女学院の未来のために学院のすべての人が「敬神奉仕」の精神をかみしめながら、力を合わせ



院長選出の経緯報告と新体制について

法人事務局長 湯浅 慶

二〇〇六年度第三回理事会において、「院長選考委員」が委嘱され、慎重な協議を重ねました。一・二三年前にカナダ・メソジスト教会から派遣されたカートメル先生のご尽力で始まったミッシヨンスクールとしての歴史をふまえた上で、院長選考委員会は、学校経営が厳しい現代において幼稚園から大学までの一貫教育機関としての東洋英和女学院を、全学的に東洋英和たらしめる院長には池田守男理事長に院長をご兼務いただき、舵取りを託するのが一番の策と結論いたしました。かつ、存分に学院でのお働きを展開していただくために、二人の副院長として鮑戸弘副院長と吾妻國年副院長を新たに任命し、院長のリーダーシップに協力する体制を作りました。

また経常の課題処理を確実にを行うために常務理事会の機能も強化する付帯的提案をし、教学担当と経営担当の常務理事を置く事も合わせて決定されました。教学担当常務理事には大宮博氏が、経営担当常務理事には水澤郁夫氏が選任されました。

以上に述べたような新体制のもと、

理事会は池田理事長に院長兼務就任をご決断いただきました。

教学担当・経営担当常務理事のご紹介

大宮博 常務理事（教学担当）

一九六六年東京神学大学博士課程修了、神学博士。東中通教会、阿佐ヶ谷教会牧師を経て、現在成瀬が丘教会牧師。財団法人日本聖書協会理事長。学院では一九八五年より評議員、一九八七年より理事。敬和学園、東京神学大学、明治学院理事も歴任。



敬和学園、東京神学大学、明治学院理事も歴任。

水澤郁夫 常務理事（経営担当）

一九五五年青山学院大学経済学部商学科卒業、日本銀行入行。一九七六年オリックスに入社、同社常務取締役を経てオリックス生命保険株式会社取締役副社長を務める。学院では一九九七年より評議員。青山学院評議員、社会福祉法人神愛会理事、北関東事、学園理事、聖公会神学院理事も歴任。



北関東事、学園理事、聖公会神学院理事も歴任。

院長就任 お祝いの会

五月一日の院長就任式の後、中高部の集会室において来賓の方々をはじめ学院の旧教職員・現教職員が集い「院長就任 お祝いの会」を行いました。中高部ハンドベル部の演奏とともに開会し、新たに副院長に就任した鮑戸弘先生、吾妻國年先生から今後の抱負についての挨拶があり、静岡英和女学院理事長の辻昭先生からはあたたかいお祝いの言葉を頂戴いたしました。生徒を代表して中高部生徒会長が歓迎の言葉を院長に述べ、高等部三年生の生徒が校歌を合唱しました。「敬神奉仕」の心を詠った歌詞を聴き、改めて気持ちを引き締めるとともに、最後は皆で一緒に校歌の三番を歌いました。池田守男新院長は感謝の言葉を力強く語り、母の会からの花束を受け取りました。後援会からのたくさんの方々から会場を彩り、学院の新たなスタートに向けて大勢の方々からなごやかな雰囲気の中で喜びにあふれる時を過ごしました。



高等部3年生が校歌を歌いました



静岡英和女学院理事長 辻 昭先生



池田院長が感謝の言葉を述べました

院長就任式・お祝いの会に関しましては学院ホームページのトピックスも合わせてご覧ください。
学院ホームページ <http://www.toyoeiwa.ac.jp/>

学院史料展示のお知らせ

この秋から学院本部・大学院棟1階ロビーに東洋英和女学院が所蔵する史料を展示するコーナーが設けられます。学院創立期の貴重な写真をはじめ、123年にわたる歴史を感じさせる興味深い史料が紹介されます。是非お立ち寄りください。



カートメル先生愛用の聖書

人力車に乗るカートメル先生

—“The Missionary Outlook”より—

よみがえる野尻 ―第二期改築工事を終えて―

高等部教頭 石澤 友康

東洋英和中部における教育の柱のひとつに野尻野外活動があります。東洋英和においてキャンプ教育は戦前から行われてきましたが、一九七〇年（昭和四五年）に長野彌先生を始めとする多くの方々の努力により、現在の野尻湖畔にキャンプサイトが建設されました。生徒の野尻湖キャンプ生活として中二夏期学校・キャンプ・訓練キャンプなどが毎年行われてきて、野尻湖の生活は英和の夏の定番となりました。それに伴い、施設は老朽化し一九九二年にはキャンプサイト再配置計画が出されました。検討の結果、第一期工事として一九九四年より生徒の宿泊棟であるキャンピンの建て替え工事が行



新寺ヶ崎ハウス
今までの寺ヶ崎ハウスのイメージを残しました。宿泊部屋の下には船など入れる倉庫も新しく作りしました。(2007/06/03撮影)



旧寺ヶ崎ハウスと旧英和ハウス
築35年以上経ちました。いままでお世話になりました。いろいろな思い出をありがとう。(2006/07/22撮影)



新英和ハウス
2階建てとなりスタッフが宿泊できる部屋を増やしました。保健室はキャンピン側に移りました。(2007/06/03撮影)

われ、一九九五年夏に新キャンピンが竣工しました。キャンピンは現在も快適に使用されています。続く第二期工事としてメインホール、風呂場、管理棟、教師宿泊棟の建て替えが計画されました。しかし、学院の経済状況が許さず、棚上げになったままとなっていました。それから十数年の時を経て、施設はさらに老朽化が進み、現状の応急的な修理を続けていては毎年多額の支出が見込まれる状態となりました。

そのような中、学院・理事会の了解が得られ、二〇〇四年より第二期工事計画が立ち上がりました。第二期工事は風呂場、管理棟（英和ハウス）、教師宿泊棟（寺ヶ崎ハウス）の改築工事です。二〇〇六年秋に起工式が行われ、工事が着工しました。そして今年度夏にリニューアルオープンとなりました。

撮影された写真は六月時点の様子です。周りの自然と調和した素敵な建物となりそうです。風呂場は浴槽も大きくなり洗い場が増え、生徒達のキャンプ生活もより快適になることでしょう。

第三期工事（メインホール改築）の準備も着々と進んでいます。今年の夏が終われば長い歴史を持ったホールも解体作業となります。そして、これまで野尻を見守ってくれた建物がすべて一新されます。しかし、これからも人間形成に大きな意味を持つ東洋英和独自の素晴らしい野外教育が継続されていくことでしょう。さらに野尻キャンプサイトが在校生とその家族、卒業生やその家族にも、交わりと憩いの場として広く愛され用いられることも、心より願っています。

「野尻基金支援の会」について

二〇〇二年の夏、東洋英和女学院在学中も卒業後も「野尻」が好きで、夏になると「野尻に帰る」卒業生有志が学年を超えて集まりました。在学中に野尻での野外教育から頂いた豊かな恩恵とすばらしい環境を後輩たちに引き継ぐために、学院に献金の窓口となる口座を開設していただいたのが二〇〇二年の秋でした。

以来、多くの皆様のご協力を頂きながら、さまざまな形で野尻のキャンプサイトのために活動して参りました。新しい施設ができることを記念して「阿川佐和子と野尻を語る会」を開催し、院長先生にもご参加いただいたことは大きな喜びです。今後も野尻に思いを寄せる方々をつなぐ活動を継続していきたいと考えております。

主な活動

- ・ 献金の呼びかけ
- ・ Tシャツ・缶バッジなどのグッズ販売、楓祭参加による収益事業
- ・ 「トミンングを歌う会」などのイベント開催
- ・ 広報活動（Newsletter発行、HP）
- ・ ワークキャンプ

このほか、二〇〇六年中上部楓祭には、「野尻っ子の部屋」を大学生リーダーや在校生が中心になって開くお手伝いも致しました。

阿川佐和子と野尻を語る会

さる六月二三日（土）、野尻キャンプサイトの新施設建築を記念し、「阿川佐和子と野尻を語る会」が開かれました。

この会は「野尻基金支援の会」の皆様、「野尻を愛する人達が集まって、野尻について語ろう！」という熱い思いから企画が始まり、様々な準備が重ねられ実現しました。会場には野尻Tシャツやジャム、野尻湖を型どったピンブローチの販売コーナー、野尻写真のパネル展示コーナーが設けられ、開会前からにぎわいます。

佐藤順子高等部部長の開会祈禱に始まり、中高部中村健二先生によるキャンプ映像の軽妙な解説に会場が沸きまします。その後いよいよ阿川佐和子さんが登場し、池田守男理事長・院長とのお話です。阿川さんの東洋英和での思い出に始まり、野尻の自然から教えられ

たことに話が及びます。阿川さんの絶妙な進行に、思わず池田先生の相好も崩れます。

次のパネルディスカッションでは阿川さんと卒業生の吉岡康子さん（吉祥寺教会牧師）、鈴木齊中学部部長の御三方がキャンプでの先生と生徒との交流、野尻での愉快なエピソード、自分達がつくりあげていくキャンプサイトの素晴らしさについて語りました。懐かしい先生方も登場され富岡正男先生、岡本幸江先生、浜野浩一先生が思ひ出を語ってください、最後は会場一体となって富岡先生の「今日のわざ」を歌い、吾妻國年副院長のお祈りで閉会しました。たくさんの方々の野尻への思いが込められたあたたかな楽しい会となりました。



野尻の写真が並ぶ展示コーナー



中村健二先生による「野尻キャンプサイトは今」

阿川佐和子さんの名進行に会が盛り上がります



池田先生も思わず満面の笑みです



野尻で踊る若き日の富岡先生



今も昔も変わらぬ富岡先生の熱中指導



「野尻ッ子」吉岡康子さんと鈴木先生が語ります



最後はトミソング「今日のわざ」をみんなで合唱しました

大きい組のおかいもの

「小さい組とひよこ組の分買ってないよ。どうする？」大通りにある千鳥屋さんに自分達のおやつを買いに出かけた帰り道、年長組のある子どもが言ったひとことです。

都会の生活は車での移動が多く、意識していないと歩くことが少なくなりがちです。しっかりと自分の足で気持ちよく歩くことや、行きかう人への配慮等…小さなうちから身につけていってほしいものです。そのような事もふまえ、幼稚園では時々近くのお店に買い物に出かけます。花屋さんに出かけ、幼稚園の花壇に適した花は何かとお店の人に相談して、色合いを考えながら花の苗を買ってきたり、買い物目的、内容はその時々で違います。

さて翌日、さっそく十二人の子ども達と一緒に麻布十番のスーパーマーケットに小さい組とひよこ組のおやつを買いに出かけることにしました。並んでいるたくさんのお菓子の中から選ぶのは大変なので、出発前にどんなおやつにするかを相談していくことにしました。ひよこ組には蒸しパン、小さい組には、パンにジャムをつけたもの・ようかん・い



ちごにコンデンスミルクをかけたもの等。大体の目安がついたところで出かけることになりました。二列になって歩き始めると、警備員さんが「いつてらっしやい！お土産よろしくね」とひとこと。門を出たところで思わずみんな顔を見合わせ「警備員さんもお土産買ってきてあげよう！」ということになりました。スーパーマーケットに着くと、二グループに分かれて目当てのものを探しました。蒸しパンは大きすぎるので半分に切るうということに、そして小さい組にはパンといちごジャムを選びました。数ある中から子ども達に選ばれたいちごジャムは、一瓶にいちごが一五粒も入っていて、更に決め手になったのは、砂糖不使用「のひとことでした。」

翌日おやつを食べた子ども達が部屋までお札にきてくれました。「今度は僕達がおか買ってきてあげるからね。」とこっそり言ってくれた小さい組の子どものことを「かわいいなあ」という顔をして温かく見ている年長組の子ども達。その姿を見て、「かわいいなあ」と思わず微笑んでしまいました。

かえで幼稚園の大切な部屋

昨年春、開設以来長い間職員室として使われていた玄関横の部屋の一角をリフォームし、子ども達にとつて、より開かれた空間としました。そこは…おやつ部屋・怪我をしたり具合が悪くなった時の部屋・着替えの服やスモックを借りる部屋・お母さんに会いたくなった時の部屋・遊びの間・一人になって静かに過ごしたくなった子どもの部屋、もちろん先生達の部屋としても事務室としても使われています。



ここには、毎日大勢の子ども達がやって来ます。朝の支度を終えて早々に「おやつまだ？」とAちゃんが顔を見せました。「おやつ（合図の）お人形さんが出るまで待っててね」。こっくりとうなずくと、三歳の部屋に戻っていききました。

に気づき、遊びに一区切りをつけて食べに来ます。Cちゃんは仲良しのDちゃんといつも誘い合って来ます。担当の保育者にお祈りをしていただくのですが「おいしいおやつを神さまありがとう。このお祈りをイエスさまのお名前を通して」と保育者の祈りの言葉に声を重ねていく子ども達が、少しずつできてきました。

このところ友達関係が少し変わり、遊びを探している時間が多いEちゃんは、毎日のようにやって来ます。「あら、Eちゃんどうしたの？」と聞くと、「痛い」と答えます。「どこが痛いの？」と言われ、体の中から今日の痛い場所を探し「えーと、ここ」。指差した箇所はなんともありません。「そこが痛いの。特別よく効く薬を塗りましょうね。」ピンクの塗り薬を塗り、その場所をそおっと手でしばらくくるんであげます。「さあ、もう大丈夫よ」と言われ、Eちゃんは、にっこり微笑んで遊びに戻っていききました。

こうやって毎日、入れ替わり立ち替わり大勢の子ども達がやって来るこの部屋は、幼稚園の大切な空間なのです。

「教頭先生」となつて

「なんか変…」と、子ども達にどれほど言われたことか。教頭先生と言えば、加藤先生しか知らない今の在校生にとって、私が教頭だということに、余程違和感を覚えるらしいのです。しかし誰よりも一番「なんか変」を感じ続けていたのは、本人です。クラスで、生き生きとした子ども達との時間を過ごしていた日々から、一変してしまいました。

「教頭先生って何やってるの？」とも言われます。「あのね、書類の山と格闘して、いろんな人とお話しして…」と、いくら説明しても分かってもらえそうにないので、「いろいろあるのよ…」と、言うしかありません。

本当にいろいろあって、とても負いきれず、積み残し荷物を増やしながら歩んでいる感じです。気づくと職員室の窓の向こうの校庭は真っ暗。「六本木ヒルズ」だけが明々と灯り、視界いっぱい、でーんとそびえています。それを職員室の窓から見上げると、なぜかため息が出ます。でもその翌日、明るい陽を浴びた校庭には、子ども

小学部教頭 山本香織



も達の歓声があふれ、私の心の中も晴れ渡ります。学校が大好きな子ども達と同じく、私も、この学校が大好きです。

そして何よりも、東洋英和をお造りになった神様が、この学校を愛し続けてくださっています。一二年間の歴史がそれを証明しています。

私にはとても負いきれないと思うときがあります。でも私には出来なくても神様にはお出来になります。だから私は神様に祈って、力を求めています。神様が愛してやまないこの学校での神様のお働きが進んでいくように、私が用いられることを、祈っていきたくです。

春の小学部

四月二日 入学式



「上級生の花のアーチを満面の笑顔でくぐり抜ける娘の姿に深く感動致しました。上級生が新一年生を心から迎え入れる姿勢ともてなしの心を強く感じたからです。」
(新入生保護者)

五月二日 春の遠足

低学年…明治神宮
中学年…小金井公園
高学年…子どもの国

「緑の大地はわたしをつつんでくれそうです。ぽかぽかと温かいお日様は、お母さんのようなぬくもりです。こんなに気持ちがいい



日なんだもの。本当はお日様が西の空に少しずつまで遊んでいたかった。」(四年生)

「私が一番楽しみだったのは、オリエンテーリングです。みんな地図をじっくり見ながら進んでいきました。急な坂をがんばって上りました。みんなで苦労して探して見つかったと、とってもすつきりしました。」(五年生)

五月三日 学校探検

「二年生の私たちは一年生に学校の中を案内してあげました。一年生もとても喜んでくれました。『ありがとう』と言ってもらえて、嬉しかったです。」(二年生)

五月二六日 運動会

「いよいよ楽しみにしていたリレーです。私は一番走者なので、私が転んだりスタートダッシュがおそかったりすると、どんどんおくられていってしまうので、かんじんな人なのです。」(三年生)

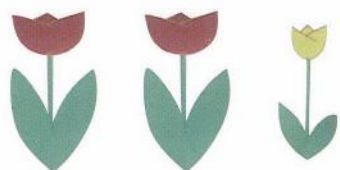


「初めての副指揮でどきどきするなか、鼓笛パレードが始まりました。真ん中にもどるとき、いつ行けばいいのかを忘れてしまつてちよつとあせってしまったけれど、なんとか上手くやりました。そして最後の一周『ああ、もうこれでおわっちゃうのかあ。』そう思うと悲しくなつて、でもここまで副指揮の役目を果たせたことが嬉しくて微妙な気持ちでした。」(六年生)



by Kyl Timmer

中高部英語科教諭 カイル・ティマー



chairs. This is where the students come to eat their lunch. An English Conversation teacher sits at each of these tables. The teachers try to get the students to speak as much English as possible. Some students come almost every day. They say they have more chances to speak English in the English room than in their conversation classes. Mr. Timmer said, "The students who come to the English Room every day and try to speak English will graduate from Toyo Eiwa fluent speakers of English. I think that is very exciting!"

Across the room from the TV is a big comfortable sofa. Here the students can really relax and feel at home. Next to the sofa is a big bookshelf filled with books, magazines and videos for the students to use. There are many English games as well for the students to play any time they want.

The English Room is not only used at lunch time. Sr. III Elective Conversation, Sr. III Advanced Reader uses the English Room as their classroom. The conversation teachers use the English Room from time to time for their regular conversation classes as well. When Mr. Timmer's students are performing role-plays they always use the English Room. The room makes the students relax and helps them perform better.



Come and join us for lunch!



The small table.

The English Conversation teachers have many plans for the room. Ms. Kusunoki said, "We have only just begun. We want to have more books, magazines and games available to the students.

We want the English Room to always be busy with English activities and students speaking English". The English Room has become an important part of Toyo Eiwa. It's not just a play room. It's a place for learning. Students need a place to feel comfortable and relaxed in order to try to use English. Toyo Eiwa is lucky to have such a place.

Mr. Timmer would like to thank Mr. Sekiya in the office for all his support. We could never have created such a beautiful space without him. Come anytime and enter a new world.

English Room Rules.

- Please take your lunch trash out of the English Room.
- No standing or jumping on the sofa.
- If you play with the games or cards, please put all things back in the shelves.
- Please ask to use the paper art supplies before using them.

Thank You



The entrance to the English Room.



中高部

生徒の感想

Izumi Nanjo (Sr. 1 student)

"When I was a Jr. 1 student, my friend invited me to the English room. I don't know if my English has improved but I now really enjoy speaking English."

Eri Shindo (Jr. 3 student)

"I was invited by my friend. My classroom is boring so I like to come to the English room."

Yuki Mitsubayashi (Jr. 3 student)

"I like the interior of the English Room. I feel better when I'm here."

Nao Tanaka (Jr. 3 student)

"It has become my habit to come to the English Room."

The English Room: Entering a New World

Welcome to the English Room of Toyo Eiwa イングリッシュルームへようこそ!

7年前、Timmer先生の「ここに行けば、native speakerの先生と英語で自由に話すことができる」、そのような場所があればとのお考えからEnglish Roomができました。それ以来、毎昼休み、English Roomに英語を話したい中高生が集まり、3、4人のnative speakerの先生を中心に英語での会話を楽しんでいます。

昨年の秋までは、English Roomと言っても教室の外「306 English Room」の札がその存在を示しているだけで、普通教室と何の違もない教室でした。英語科では、English Roomが生徒たちにとって、「アメリカの家庭にいるような気分になれる所」、「リラックスして英語が話せる所」になればとの強い思いがありました。その思いに対して、もっと多くの生徒にとって魅力のある、「行ってみたい場所」となるように教室を改装しても良いとのお許しを学校からいただき、昨年の秋より少しずつ手直しをして、今年の3月にEnglish Roomが完成しました。教室は、パープルのカーペット、白とパープルの天井、ブルーのカーテン、赤いソファ、白い机、様々な不思議な色がいっぱい、でもなぜか落ち着いた雰囲気のある素敵なEnglish Roomになりました。教室内の3面のボードの季節毎の展示、学年行事、ペラ短期留学の写真や感想が、静かに、魅力的に生徒の活動を伝えています。

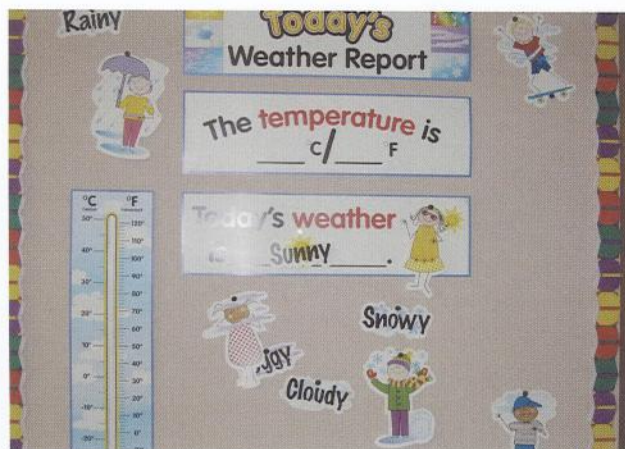
English Room は英会話の時間にも使われています。英和のチョット違った雰囲気の中で英語の力を付けている生徒たちの場所、English Roomが今回の中高部の特集です。

中
高
部

When you open the door to the Toyo Eiwa English room you are suddenly transported to another country. The first thing you notice is the beautiful light purple carpet covering the floor. Very few classrooms in Japan have carpet so this is very refreshing. Students can freely come in with their shoes on as is the custom in North America. The next thing you notice are the bulletin boards which cover most of the wall space. On one small bulletin board on your right as you walk in the door is "Today's Weather Report". Students change the pictures according to the weather of the day. The next bulletin board is a beautiful display of the "Pella exchange program". There are lots of pictures of their trip. Many girls have enjoyed looking at them. The bulletin boards are often changed reflecting school activities or the season of the year. Students are welcome to design the bulletin boards as well. In some of the pictures you can see that!

During Christmas season, there is a big Christmas scene on the bulletin board.

As you continue walking you will see a beautiful flat-screened TV. This is used to watch movies during lunch or used for classes to study English. As you look out into the room you will see three beautiful tables with



Students check the weather every day.



Pictures from the Pella Study Tour.



What do you want to do this summer?

大学内でできる国際交流

東洋英和女学院大学は海外のいくつかの大学と協定を結び、互いに学生を派遣し受け入れ合う交換留学制度を行っています。協定校は、一九九〇年にアメリカ・サンディエゴ州立大学と協定を結んだのをはじめに、二〇〇一年の韓国・梨花女子大、二〇〇六年のトルコ・イェディテペ大学と徐々に増え、今年は新たにイタリア・サレント大学とタイ・チェンマイ大学も加わりました。毎年本学から英和生を派遣していること、本学にも協定校から迎えた留学生がいることを、実は知らないという学生も多くいるようです。

ここでは二〇〇七年度前期に受入れ中の五名の交換留学生を紹介します。授業や学内で彼女達に出会うことがあれば、異文化体験のチャンスです。ぜひ異なる考え方や習慣に触れ、多くの刺激を受けてください。

デュバン直美さん(サンディエゴ州立大学)



皆さんこんにちは

は！私はアメリカ、サンディエゴ州立大学の学生で、国際経営と美術の二つの学部を専攻

しています。東洋英和女学院大学では国際社会学部に所属しています。



4月2日入学式、パティの皆さんが留学生歓迎会を開きました。

英和は私の学生時代を含めて初めての女子大だったため、英和へ来た最初の頃は相当ショックを受けてしまいました。一人だけのアメリカ人で、英和の女性達に上手く交じることが出来るのだろうか、と不安でした。しかし、同級生のみながら授業のすぐ終わりに大勢で私を囲み、連絡先の交換やアメリカについての質問をしてくれ、とっても興味をもってくれたのです。こんなに簡単に仲間に入れてくれて、本当に嬉しかったです。

その上に、国際交流センターの方々や先生方が一生懸命サポートしてくれて、いつ

でも、必ず話を聞いてくれる相手がいいて、それが何よりも安心でした。相撲を見る機会があったり、ダンスの部活ではステージに出て発表会に参加する機会もありました。もうそろそろアメリカへ帰る時期が近づいていますが、英和で出来たさまざまな友達、そして思い出は一生忘れられません。



李 嘉銀さん

(梨花女子大)

東洋英和へ来て

から今までの時間

が、一分たりとも

無駄にならないよ

うに努力してきました。

ちょっと無理じゃないかと心配しながら、出来るだけ専攻に関わる授業も沢山受けることにし、ゼミにも参加することにしました。本当にいい先生方と東洋英和の友達、国際交流センターのおかげで、時間が経つほど心配は感謝に変わりました。特に、ゼミでは一週間、国会議員事務所でのインターンシップを体験する機会に恵まれました。この経験はなかなか出来ない貴重なことでした。その一週間は少しでも本場の社会が何なのかを感じる事が出来る期間でしたし、日本と韓国との共通点と差異を見つけることも出来ました。

このように、私はここに来て人生の宝物になる多くのことを習いました。今までの時間が大事だったように、今からの東洋英和での時間も楽しみにしています。



昨年度の留学生秋の文化研修日帰り旅行では山梨名物ほうとう打ち体験も。



留学生春の文化研修で大相撲五月場所を観戦しました。

崔芝娥さん(梨花女子大)



梨花大学では社会体育を専攻し、東洋英和では人間福祉学科に所属しています。

日本に来てまだ

日が浅いのですが、日本人の友達が出来、銀座、六本木、代官山などに行き、新しい経験をしました。六月の横浜開港祭には東洋英和の友達と一緒にに行ってきました。私にとって日本というイメージはお花見と花火という印象が強かったので、楽しみにしていた花火を見ることが出来てすごく嬉し



七夕パーティーでは短冊に願い事を書いて笹の木に結び付けました。

かったです。もちろん韓国でも花火大会は

行われていますが、実際に行ったことがなかったなので、とても感動しました。待っていた時間は長かったのですが、屋台で日本の食べ物を食べながら友達といういろいろな話をし、分らなかった日本の文化も分かるようになり、ちっとも退屈ではありませんでした。この経験は心が温かくなる日本での大切な思い出になりました。

これからも韓国に帰る前にいろいろなことを経験し、いろいろな人と付き合っていきたいです。日本で体験したすべてを心の中に刻んで、世の中を見る視野が広がって帰国出来ればと願っています。

黄ナレさん(梨花女子大)



私は梨花で服飾を専攻しています。東洋英和には服飾の専攻がないので、人間科学科に所属して「幼児教育」を学んでいます。英和の授業では主に英語とフランス語を受けています。毎日、日本語と英語とフランス語、さらに韓国語も混ぜて頭がパニックになりそうです。

でも、東洋英和の学生達は優しく、みんな気を遣ってくれるので楽しいです。英和にbuddy友達がいなかったら私はさびしくて、韓国に帰ってしまったかもしれません(笑)。

まだ日本語が上手じゃないので本格的に「幼児教育」を学んではいけないのですが、後



6月の文化研修では茶道部に茶道のてほどきをうけました。

期にはもっと頑張ってたたくさんの授業に参加したいと思っています。

この前母が来た時に、たまプラーザにある東洋英和のかえで幼稚園に行きました。子供達が自然と一つになって自由に遊ぶ様子を見て、あれが真正な教育だね、と母が言いました。本当に印象的な光景でした。それでかえで幼稚園の教育方針を学びたくなりました。

ももとの専攻も怠らないために休日に染色をしたり、服を作ったりもしています。そして原宿、渋谷、代官山などに行き、そこで日本の若者達のファッションを見学します。とてもひきつけられます。

とにかく一年後、私が日本の生活を振り返った時、本当に成長したなと感じられるように頑張りたいです。これからもよろしくお願いします。

エルシン・ニギャルさん(イエディテハ大学)

Hello! This is Mimi. I am the exchange student from Turkey and I am studying "visual communication design". After I graduate, I am planning to move back to Tokyo and apply for a master's degree. I love it here! Everybody is helping me a lot at Toyo Eiwa, and my buddies are the best cook ever! I will be studying here until August and I am already sad about leaving soon. I am going to miss life in Japan a lot, everything went really fast! This is an experience I will remember forever.



留学生buddy(バディ)

制度について

留学生が日本において行う必要な手続きや、生活・勉強などをあらゆる面でサポートする学生を「バディ」と呼んでいます。空港の迎えや区役所での手続き、日本語の練習相手や留学生文化研修に同行するなど、責任をもって留学生を支えています。

募集は毎年二月頃に掲示にて行います。留学生のお手伝いをしたいという学生はぜひ応募してください。

生涯学習センター一〇周年記念講演会

二〇〇七年六月三〇日(土)、本学の生涯学習センター一〇周年を祝う記念講演会が横浜キャンパスにて開催されました。第一部の講演会は、司会を担当した太田良子教授のお祈りの後、センター長の鮑戸弘学長が「一〇周年そして未来を学ぶ」と題して謝辞を述べ、本学のセンターの特色として、第一は男性の受講生の多いこと、第二はリピーターの多いこと、第三によく質問されるので教師は十分な準備をして講座に臨んでいることを語りました。さらに今後の課題としては第一に地域貢献をさらに推進すること、第二に電子機器を用いて同時に聴ける授業を実施するなどして六本木キャンパスと横浜キャンパスとの連携を密にすること、さらに第三として現在卒業生が三割、在校生のご家族が一割受講されているが、より多くの学院関係の方に参加いただけるように広報等の努力をすることを挙げました。

続いて外交評論家・パリ日本文化会館初代館長・元HNK特別主幹の磯村尚徳氏から「日本は文化的に『美しい国』か」と題して記念講演がありました。長い期間にわたるフランスでのお仕事から、フランスにおける日本文化の影響について、最初に一八五〇―六〇年代の日本ブーム「ジャポニスム」のプラズとマイナス面について、続いて現代の日本の漫画、アニメ、ファッション等々が世界的に注目され日本は大衆文化の超大国になって



磯村尚徳氏が日本文化について語りました

いること、たとえば宮崎駿のアニメが非常に評価されているが、その背景としてはアメリカ的な画一化と異なる多様性が評価されていると指摘されました。最後に日本の衣食住にわたる生活文化の他国への影響力と今後の問題について分析されました。その後、来場者の方から現代日本の教育問題に関しての質問があり、それに答えてフランスの教育の特色、たとえば幼い時に厳しく躾ける、低学年ではまず知識を詰め込む、さらには、幼稚園から哲学的なものの考え方を習得させる、即ち疑う習慣を身に付けさせ、物事は一つだけでなく、多様な見方があることを学ぶ等々について語られました。

第二部は、記念コンサート。最初に「珠玉のコンサート」として、原口摩純本学非常勤講



鮑戸弘学長・生涯学習センター長による謝辞



原口摩純先生によるピアノ独奏



眞理ヨシコ先生は「日本のうた」を歌いました

師によるピアノ独奏があり、シヨパンの「子犬のワルツ」から始まり、バッハ、モーツァルト、ベートベンなど八曲を名解説とともに聴きました。いずれも小品ながら美しい調べが会場に流れ、続いて眞理ヨシコ教授による「日本のうた」と題する独唱会となり、「庭の千草」「この道」「ゆりかごのうた」「くまさん」等々、郷愁をさそう歌を熱唱され、「夏の思い出」を皆で歌い、楽しい一時を過ごしました。その後、生涯学習センター関係者はティールタイムの時を持ち会を終わりました。当日は梅雨の晴れ間で大変気持ちの良い天気に恵まれ、五三〇人にも及ぶ方々にご来場いただき盛会となりました。参加者の方からは、生涯学習センターの一〇周年にふさわしい有意義な一日であったとの感想をいただきました。

追悼 織田 尚生教授

人間科学部教授(臨床心理学) 小坂和子

大学人間科学部織田尚生教授は、去る五月十一日、循環器疾患にて急逝された。

織田教授は日本を代表するユング派精神分析家であり、「夢分析」「箱庭療法」を実践され、国際的に評価の高い「心理療法における逆転移論」では、国内外で、次々に革新的な着想を発表してこられた。

本学には一九九五年に人間科学部教授として就任された。学部教育においては、ご自身の臨床体験を通じて、常に最新の知見を穏やかに語りかけられた。学生にとって先生の存在は、学問における師であり、かつ、こころの危機に直面して、自己理解を深めざるをえない道程での「精神的支柱」でもあった。

大学院においては九七年に「東洋英和こころの相談室」を六本木に開設、同時に臨床心理士の育成に着手された。他学に先駆けて、実習による訓練内容を充実させる一方、単なる知識・技量を超えて、援助者側のためまぬ「自己洞察」こそが不可欠であることを真摯に求められた。本学がいち早く、臨床心理士養成校と認められ、さらに、深く優しい人間理解のまなざしをもつ、真に有用な臨床心理士を輩出し続けている事実は、正に織田教授のご功績に帰すべきものである。

生涯学習センター六本木キャンパス 2007年度 秋学期開講講座のご案内

主として初めての方でも楽しめる講座を選んでみました。是非ご参加ください。(要事前申込)

●特別公開講座

カナダ・日本文化交流史(2)	10/4より木曜日13:30~15:00
21世紀の「子どもに生きよう！」(2)	9/28より金曜日18:30~20:00

こちらの講座では、ひとつのテーマをめぐって複数の講師が多彩な切り口を展開します。

●六本木キャンパス開講科目

時事英文の読解	10/2より火曜日14:00~16:00	講師 山岡清二
フランス語入門	9/25より火曜日11:15~12:45	講師 宇田川悟
文学に人間の「生・老・死」はどう描かれているか ー主として日本近代文学ー	10/2より火曜日13:00~14:30	講師 早瀬圭一
現代フランスとフランス人	9/25より火曜日14:45~16:15	講師 宇田川悟
英米児童文学の翻訳	9/26より水曜日11:00~12:30	講師 北條文緒
ドイツ語初級	9/26より水曜日13:10~14:40	講師 鈴木桂子
バイブル・クラス	10/17より水曜日15:00~16:30	講師 Zenora Rackham
イギリス短編小説の愉しみ	9/27より木曜日14:00~15:30	講師 太田良子
初めてのテディベアとバースディ・テディベア (初級)	10/12より金曜日10:30~12:30	講師 利倉佳子
アメリカ小説に探る家族と私	9/21より金曜日10:40~12:10	講師 山本豊子
拉致問題は解決するか	9/21より金曜日13:00~14:30	講師 神谷不二
ザビエルとその時代	9/28より金曜日13:00~14:30	講師 岸野 久
キリスト教信仰入門	9/28より金曜日14:00~15:30	講師 原島 正
西欧言語のルーツ ラテン語を学ぶ ー入門編(2)ー	9/28より金曜日14:40~16:10	講師 島 創平

問合せ先 生涯学習センター事務室 TEL045-922-9707

東洋英和女学院大学 死生学研究所 2007年度 連続講座・公開研究会のご案内

「語られる生と死」

死生学研究所では2007年度に「語られる生と死」というテーマで連続講座と公開研究会を開催いたします。どなたでも、どの回でもどうぞご自由にご参加ください。

会場/東洋英和女学院大学大学院(六本木)
参加費無料/申込不要/当日先着順100名様
問合せ先 東洋英和女学院大学・死生学研究所
03-3583-4035 (FAX専用)
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

死生学研究所所長 渡辺和子

日 程(土曜日)	発 表 者	所 属	題 目
2007年 10月13日	14:30~16:00 第4回公開研究会 野口晴子	本学非常勤講師/国立社会保障・人口問題研究所社会保険基礎理論研究部第二室長	介護サービス公共モデルの調査研究
	16:30~18:00 第6回連続講座 西 洋子	本学人間科学部教授	いのちの身体表現 ーインクルーシブ・ダンスー
11月17日	14:30~16:00 第5回公開研究会 平田幸宏	本学人間科学部准教授	出生前診断いのちの選別
	16:30~18:00 第7回連続講座 久保田まり	本学人間科学部教授	愛着対象の喪失が及ぼす影響
12月15日	14:30~16:00 第6回公開研究会 古川のり子	本学国際社会学部教授	日本神話と葬式の民俗
	16:30~18:00 第8回連続講座 高橋 原	東京大学大学院助教	ファンタジーにおける死と生 ー『ゲド戦記』を中心にー
2008年 1月12日	14:00~15:30 第7回公開研究会 原島 正	本学人間科学部教授	日本人キリスト者の死生観 ーまとめー
	16:00~17:30 第9回連続講座 島 創平	本学人間科学部教授	人は死後どこに行くのか ー使徒パウロの来世観ー
1月26日	14:30~16:00 第8回公開研究会 長尾敦子	本学人間科学部准教授	安楽死問題に関する英語文献 ー紹介と解説ー
	16:30~18:00 第10回連続講座 坪井龍太	本学人間科学部准教授	生命の教育 ー実践に向けての課題ー
2月23日	14:30~16:00 第11回連続講座 早瀬圭一	本学人間科学部教授 毎日新聞社客員編集委員	生きる悲しみ死ぬ喜び
	16:30~18:00 第9回公開研究会 門林道子	昭和薬科大学非常勤講師	死と向き合って ーグリーンワークと闘病記ー
3月8日	16:30~18:00 第12回連続講座 山田和夫	本学人間科学部教授	精神科医神谷美恵子氏とスピリチュアリティ

東洋英和女学院大学 現代史研究所 2007年度 講演会・シンポジウムのご案内

現代史研究所は、大学院の現代史研究センターを前身として2004(平成16)年4月1日に創設された。その目的は、政治・経済・社会・地域研究・国際関係などの幅広い現代史の領域で多くの研究成果を促すことで、本学の研究基盤をより強固とし、国内外で英和の学術的レベルを向上させることにある。具体的には、研究プロジェクトの推進、講演会やシンポジウムの開催、定例研究会の実施、報告書の刊行などを常時行っている。

現代史研究所所長 増田 弘

日 程	講 演 者	題 目
10月11日(木)	岡部 達味 (東京都立大学名誉教授)	日中関係の過去と将来
11月16日(金)	増田 弘 (本学国際社会学部教授)	日本とPKO
	山田 満 (本学国際社会学部教授) 他2名	
12月13日(木)	速水 融 (慶應大学名誉教授)	歴史人口学にみる家族復元法

会場/東洋英和女学院大学(横浜キャンパス) 参加費無料

問合せ先 東洋英和女学院大学・現代史研究所

045-922-7272 (FAX専用) gendaiken@toyoeiwa.ac.jp

英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.09

絵・文・写真：中池 敏之

(大学非常勤講師：博物館概論等担当)
(生涯学習センター講師)



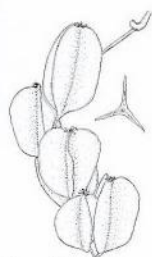
スダジイ 六本木、横浜の両キャンパスにあり

スダジイ (すだ椎)

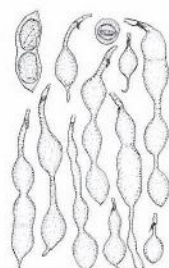
「かけす かけす シイおとせ ドングリ
三つとかえんか」。秋、子ども達はこんな歌
を歌いながらシイのドングリ採りに夢中であ
る(あった)。子どもの頃、校庭や近所の木
に登り、ドングリでポケット一杯、幸せ一杯
であった。生のまま、また炒って良く食べた。

縄文時代からこのかた、ドングリは日本人
の食生活を支えてきた。韓国や中国ではいま
だに、ドングリから豆腐状の製品を作る。淡
白な味はまさに自然の恵み。

秋のキャンパスは、遊びに使える実、輝く
白色の花、葉の形が面白い草が一杯。一日中
草木と遊んでいた。



オノドコロ
実を鼻に付けて
近づきます。



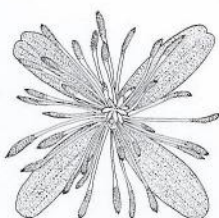
エンジュ
サマのくびきは鳥か
かへやういたためです。



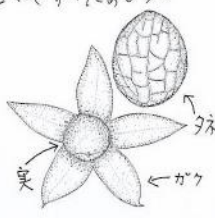
ネムノキ
暗くすると葉はと
びます。それを利用した
はこびがあります。



アキノギンショウカ
金平、金平色
杯の中のお合いに
感謝。



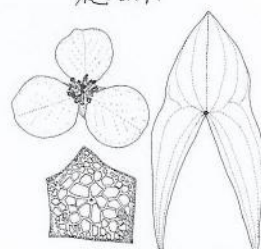
センニンソウ
花は白色、クレマチスの
仲間です。



クサギ
実はコバルト色、
ガクは紅紫色、あざやが。



コセンダングサ
腹に付くと下のまが
落ちない。わけはトゲの先に。



オモダカ
白い花、葉の形、葉柄の
葉の形、葉柄の
断面、見ると3つ。

訂正とお詫び

前号「楓園48号」11ページ『学院各部説明
会の御案内』において記載に不備な点がご
ざいました。改めましてここに訂正文を載
せましますとお詫び申し上げます。

【楓園48号 訂正】

P.11 学院各部説明会の御案内

●中高部

【誤】学校説明会① 9月8日(土)

学校説明会② 11月17日(土)

①②とも10:00~11:30 (6年生対象)

13:30~15:00 (5年生以下対象)



【正】学校説明会① 9月8日(土)

10:00~11:30 (6年生対象)

13:30~15:00 (5年生以下対象)

学校説明会② 11月17日(土)

10:00~11:30 (5年生以下対象)

13:30~15:00 (6年生対象)

東洋英和女学院学院報 楓園 第49号

発行日：2007年9月4日

編集：学院報編集委員会

発行：学校法人 東洋英和女学院

東京都港区六本木5-14-40

TEL 03-3583-3325

メールアドレス

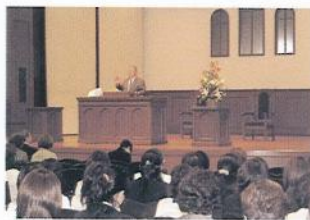
koho@toyoeiwa.ac.jp

ホームページアドレス

http://www.toyoeiwa.ac.jp/



今井奈緒子さんの演奏



藤井浩先生のお説教

二〇〇七年度同窓会総会報告
六月二日(土)に、高等部、短期大学三会
大学、大学院の同窓会のすべてが六本木校地
に集まり、二〇〇七年度総会が開催されまし
た。藤井浩先生(ピースハウス病院牧師)に
よる礼拝を共に守り、建学の精神「敬神奉仕」
を改めて考える機会を与えられ、また卒業生
で世界的オルガニストの今井奈緒子さんの心
に響くパイプオルガンの演奏を聴きました。
池田守男理事長・院長には「鳥居坂西地区
安全安心まちづくり」事業について伺いまし
た。同窓会は、これからも心をひとつにして、
共に前進することを願っています。

同窓会より



2007年度後援会役員

会長 横山 巖 (継続)
副会長 金子栄一 (継続) 安藝祐一 (継続)
田中嘉一 (継続) 神谷直彌 (継続)
小林 宏 (新任)
永澤宏一 (継続)
会計監事

二〇〇七年度後援会総会報告
後援会役員会および総会が六
月二日(金)にANAインタ
ーコンチネンタルホテル東京に
て開催されました。後援会委員
と学院各部の代表者をはじめと
した教職員にご参加いただき、
すべての議案が承認され、各部
説明が行われました。本年も教
育充実助成金を寄付し、円滑な
学院運営のためにご活用いただ
くようお願いいたしました。

後援会より